

1 教育について

- ① ゆとりのある教育について
- ② 中高一貫校について
- ③ 学校評価, 人事評価について
- ④ 子ども会活動について
- ⑤ 校区の見直しについて

〈発言内容〉

このたび、初めて広島市議会に参りました佐伯区の桑田恭子でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

質問に先立ちまして、私が非常に感銘を受けました出来事についてお話させていただきます。

昨年1月、日本で開催されましたアフガニスタン復興支援会議、皆様もよく御承知と思いますが、アメリカを母体にした連合軍による空爆などで、国土が荒廃したアフガンに、世界じゅうの多くの国からたくさんの支援金が贈られることになりました。

その支援金の使い道について、各国の報道陣から質問が出されたとき、アフガン暫定政権のカルザイ議長が、即座に、まず一番に教育に使いたい。教育は国の礎である。全く同感でございました。

私は、今の日本、必ずしも教育が最優先になっていないと思っております。この1カ月後に、大規模な牛肉偽装事件が発覚。さらに、政治家による税金の不正使用など目を覆う事件が続いてまいりました。教育は国の礎、この思いは、その後ますます募ってきております。

さて、本題に戻ります。

ひろしまフロンティア21を代表いたしまして一般質問させていただきます。

私は、つい2カ月前まで一主婦、一人の母親でございました。その主婦、母親の一人といたしまして、今までいろいろと疑問に思っておりました子供の教育について質問させていただきます。

私には、高校1年生の娘と中学2年生の息子がおります。娘が小学校に入学したときから、PTAを皮切りに、子ども会、町内会のお手伝いなど、主として子供たちの健全育成にかかわる地域活動に参加してまいりました。現在も子ども会活動を行っております。これらの活動を通して、多くの子供たち、多くの親、多くの応援してくださる地域の方々とかかわってまいりました。

その体験から、私は、すべての子供たちは、家族や地域、周りの皆さんに温かく見守られ、さまざまな体験を通し、心身ともにたくましく育ってほしい、そう心から願っております。しかし、いつのころからか、私も含めた大人、もちろん子供もですが、我慢や辛抱が足りなくな

って、身勝手にわがままな日本人がふえてきたように思います。

少子・高齢化社会とよく言われます。先日、日本の合計特殊出生率がさらに低下したという報道がありました。既に厚生労働省が発表している、早ければ 2004 年に日本の人口は頂点に到達、つまり、日本人の減少と超高齢少子社会がスタートという予測は、ますます現実味を帯びてまいりました。第 2 次世界大戦後、年間 269 万人の赤ちゃんが誕生した年もありました。しかし、昨年は、6 割減の 115 万人でした。少子化は一層顕著になってきております。このような少子高齢社会の中、私たち大人は、これからの日本を担う子供たちを伸び伸びとたくましく育てていく責任があります。

そこで、今回は、自分がかかわってきました教育について、五つ質問させていただきます。

### ① まず初めに、ゆとりのある教育についてお尋ねします。

完全学校週 5 日制が平成 14 年度よりスタートし、いわゆるゆとり教育が実施されたことになっています。昭和 50 年代、不登校児の増加や校内・家庭内暴力、いじめ問題が深刻化し、その原因の一つとして、知識偏重の詰め込み教育の傾向が強いことが指摘され始めました。平成 4 年 9 月より、まず第 2 土曜日が休みになり、続いて、平成 7 年 4 月からは月 2 回の休業日が実施され、さらに、平成 14 年度からは、学習内容を 3 割カットし、学校は完全に土・日が休みになりました。しかし、実際子供たちはゆとりを感じているのでしょうか。土曜日が休みになった分、教育活動、主に教科を平日に詰め込むようになり、その結果、日々の日課が過密になりました。

例えば、3 年前まではゆとりという時間がありましたが、今はなくなっております。PTC も教科の時間外で行われ、終業式、始業式の日も授業をするようになりました。週 5 日の中でいかに授業時間を確保するのか、そのことに学校は大変苦勞されているように見えます。学習指導、校務分掌等で教員が忙しくなり、小学校においては、休憩時間に子供たちと遊ぶ教員の姿が少なくなったように思います。

県教委の資料によりますと、休みになった土・日の子供たちの過ごし方を見ると、小・中・高とも、自分の家でテレビやビデオを見る、家族の人と外出をするというのが 80% を占めております。文部科学省の教育改革の中に、みずから学び考える、生きる力をはぐくむというのがございます。私見ではありますが、テレビを見ていたのでは生きる力は十分にはつかず、学力も低下していくでしょう。始まったばかりのこのゆとりに急いで結果を求めるものではありませんが、現場の現状を常に把握していただきたいと思っております。

そこで伺います。

いわゆる、ゆとり教育と言われる新たな教育の目指すものは何でしょう。教育委員会の方針と具体的な施策を教えてください。そして、完全学校週 5 日制が実施されて 2 年目の今年度は、基礎学力の低下が懸念されるようになりました。学力低下への背景には、教える内容や時間数の削除ばかり注目され始めたのでしょうか、後で触れますが、今年度、学校評価の学校経営計画の中においても基礎学力の定着が一番に挙げられています。全国レベルの学力テストや自治

体ごとの学力テストなど調査がされています。学力の低下というのは何を根拠の話なのか、本市の小・中学校の子供たちの学力がどの程度なのか、定量的なデータは、教育委員会としてはしっかりと数値をつかんでおられることと思います。

本市の児童生徒の学力の実態について、数値でわかりやすく教えていただきたい。

そして、調査の結果については、県教委はホームページにも載せております。公開は慎重にしなければなりませんが、原則、公開をしていただきたいと思っております。

## ② 二つ目に、中高一貫校についてお尋ねします。

本年度4月より、安佐北高校に、本市で初めての中高一貫校が開校いたしました。中学生、高校生の子供を持っている私としては、当初、新しい教育システムができたのだな、これから、中高一貫教育の形がふえていくのかと関心がございました。設立の趣旨には、6年間のゆとりの中で、生徒一人一人の個性や創造性を伸ばし、幅広い交流を通して社会性や豊かな人間性を育成しますとあります。通学区域は広島市全域とあり、友達の子供さんも、佐伯区より夢と希望を持って通学を始められております。

先日、安佐北高校に見学に行かさせていただきました。高校の敷地内に安佐北中学校が新しく設けられたのだと思っておりました。しかし、高校のあいた教室を活用した中学校でした。この中高一貫校は、今までの公立にはなかった全く新しい取り組みの学校です。本市教育委員会としても力を入れられていると思いますが、施設だけを取り上げましても中途半端な感じがいたしました。

そこでお伺いいたしますが、義務教育段階において、既設の中学校があるにもかかわらず、このような中高一貫教育校を設置された目的は何でしょうか。そして、子供たちが6年間、胸を張って学べるように、また、希望の進路に進めるように、教育委員会としても責任を持って応援をしてほしいと思います。

設置目的に基づき、今後の施設の充実、教育内容の充実、教職員を含めた人事の面などでの改善や工夫などがありましたらお答えいただきたいと思います。

三つ目の質問に入ります。

## ③ 学校評価、人事評価についてお尋ねします。

まず、本年度4月よりスタートした学校評価についてお尋ねします。

従来、学校というところは、私たち保護者にとって極めて不透明に感じるところがありました。職員室の中が見えない、子供の成績である相対評価、絶対評価がよく見えない、毎年のように変わる入試制度がよく見えない、次々に出てくる教育の標語がよく見えない、そういった思いを持っておりました。今後は、校長が学校経営方針を立て、それに沿って教職員が一丸となって実践をしていく。結果については、年度末、その目標の達成について、説明責任に基づき、学校の状況について保護者、地域に説明をしながら、改善すべき点は改善をしていく。学校としての組織力を高めるために行われるものと認識しております。新しいシステムがスタートしたばかりで、現場では若干の混乱が出ていると聞いておりますが、学校が透明化されてい

く方法の一つとして、基本的にはよいことと思っております。

そこでお尋ねいたします。現在の取り組み状況についてお答えください。

そして、学校組織内部の評価です。今後、甘い評価になっていくのではないかという危惧もございます。来年度からは外部評価も実施されますが、そのことも含め、今後どのように進められていくのか、あわせてお答えください。そして、この評価がだれのための評価なのかということをお忘れずにいただきたいと思います。

もう一つの評価に、教職員一人一人の質の向上を目指す人事評価がございます。子供を学校にお任せした瞬間からいろいろな先生に出会います。児童生徒の目線で物事が考えられる、指導力のある素晴らしい先生もいらっしゃる、あらっと首をかしげたくなるような先生もいらっしゃいます。このことは、どの組織でもあることと承知しております。しかし、一番もどかしく思うのは、一度先生になったら、よほどの不祥事がない限りやめさせることはないという、一般社会とは大きく逸脱している点です。このことが、学校を不透明にしている一つの要因だろうと思っております。学力の向上、ゆとり、豊かな人間性など幾ら標語を並べて教育改革を叫んでも、それを現場で行うのはその学校の先生方です。先生との出会いというのは、出会った子供たちにとって大きな影響を与えます。この新しい人事評価とはどのようなものなのか、真に、教員の質の向上につながるものなのかお答えください。

そして、指導力不足の教員の研修といっても、一つ、だれがその教員の指導力不足を判断するのか。二つ、どのくらいの期間、だれが指導して研修し、再評価するのか。三つ、研修後、もとの職場の学校に戻れるのか、万一、最終的に教員に向いていないとなったときどうなるのか。それぞれにつきまして、わかりやすく教えてください。

今後も優秀な人材を確保するために、教員の数、収入においては検討するべきと思っております。先生は子供たちに慕われ、尊敬されることはもちろん、高収入のあこがれの職業でなくてはならないと思っております。

#### ④ 続きまして四つ目、子ども会活動につきまして、どれだけ御理解いただいているのかお尋ねいたします。

広島市で子ども会に入っている児童数は、平成 14 年度 10 月末現在で 4 万 3246 人でした。これは全児童数の 66.7%に当たります。広島市 8 区全部の単位子ども会の総数は 1,116 です。これが現時点における広島市の子ども会の概要です。

議会の皆様の中にも、子ども会の役員をされている方が大勢いらっしゃるようなので御承知と思いますが、地域の子供たちが当然のように子ども会に入っていたのは 10 年以上前の話で、最近では毎年減少しています。役員をやるのが大変だから、行事に魅力がないから、子ども会より、地域にある少年・少女のスポーツ団体、いわゆるスポ少などに入った方がおもしろいからなど原因はいろいろあると思います。子ども会そのものも、時代の変化に従って変わっていく必要があり、現在努力しております。



子ども会のよいところは、何といたっても異年齢の集団であることです。幼いころから人と人との交流を学び、上級生は下級生をいたわるとともにリーダーシップが自然に身につき、ボランティアの精神を養うとてもいい団体であると思っています。子ども会活動を通して、私たち役員、育成者もレベルアップしていると思っています。

今の社会情勢の中、洋々とした将来を持っている子供が被害者になる事故、犯罪は後を絶ちません。先日、佐伯区の小学校で、女の子が登校したときに、学校の中で襲われる事件がありました。その事件の報告と対策会議の後で、学校側もPTAも、子供の安全確保のためにパトロールをされています。しかし、いつまでもパトロールを続けるのは大変なことです。

そこで提案してみたいのですが、継続してできる防犯活動として、かつて子ども会単位で行ってありました集団登校を復活させてみてはいかがでしょうか。防犯の面だけではなく、新1年生が安心して登校することができたり、遅刻が少なくなったりと、別の効果も考えられると思っています。教育委員会の御意見をお聞かせください。

また、子ども会はコミュニティーの中核的役割ができる団体であると思っています。学校経営計画の中でも、町ぐるみによる教育の推進というのがあり、学校、家庭、地域云々と言われますが、学校教育の観点から、この地域という言葉の中に、子ども会がどれくらいのウエートで見えられるのかお答えください。

#### ⑤ 最後、五つ目に、校区の見直しについてお尋ねいたします。

私の地元、佐伯区の三和中学校は、現在、生徒数981人、学級数28、五つの小学校区を持つ県下でナンバーワンのマンモス校です。学校の教育環境は、IT教育を例にとりましても極めて悪い状況にあります。40台のパソコンの順番がなかなかこないとか、この生徒数の多さのためにゆとりの教室が少なく、2年生、3年生の習熟度別の少人数学級ができないとか、修学旅行や野外活動も、人数の多さのため活動が制限されています。

生徒も教員も、人数の多さを克服するためにアイデアを出し、努力・工夫されています。本年度より、二人教頭制を導入した具体策は実施しておられます。しかし、このマンモス校にはやはり限界があります。昭和60年、本市の学校分離基準の30学級かつ1,200人以上の基準が見直されることもなく、平成9年度より現在まで、900人以上の生徒数が続き、多くの生徒が窮屈な学校生活の中、卒業してまいりました。学校施設そのものの改善よりも、現在、隣接した城山中学校は生徒数382人、この中学校は、八幡小学校の子供たちだけが進学をしています。現在の校区制度を見直して、八幡地区まで含めた小学校区の中で、三和中、城山中の二つの中学校が自由に選べるようにできないものかと常々思っていました。

これに対しての具体策がありましたらお答えください。

以上、これからの日本を担ってくれる子供たちの教育に関する質問をさせていただきました。これからも、国の礎である教育に関心を持って取り組んでまいりたいと思います。

これで、私の一般質問を終わります。御清聴ありがとうございました。